研究主題

看護の基礎的な知識と技術の習得を向上させる指導方法と評価の工夫改善について
～日常生活援助に視点をあてて～

1 研究主題設定の理由

「日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、看護を行う能力と態度を育てる」という基礎看護の目標を達成するために、本校では、校内実習前にレポート課題・ビデオ視聴・デモンストレーションを行い、校内実習後にはグループカンファレンス・全体カンファレンス・実施後の学びや反省点の記入など学習の充実を図ってきた。しかし、看護臨地実習（基礎看護）においては、必ずしもそれらの学習内容が効果的に活用されていないことが実習時の知識・技術の未熟さから推察される。そこで、基礎的な知識と技術の習得を向上させることを目的とし、家庭や地域の関係機関等との連携強化及びICT活用を通して日常生活から援助を意識させ、より看護臨地実習を意識した校内実習をさせる。

これにより、基礎看護における学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた効果的な指導法を研究する。

2 研究体制

- (1) 県教育委員会との連携
- (2) 校長，教頭，教務主任，看護科教員の連携
- (3) 茨城県高等学校教育研究会看護部会との連携
- (4) 地域や上級学校との連携

3 2年間の主な取組

平成26年度	4月	年間計画・シラバス・評価規準の作成，研究内容・方法の検討
	5月～	生徒の実態調査の実施及び問題点の把握
	6月～	ワークシートの作成，ICTの効果的な活用方法の研究 校内実習における問題点の把握及び内容の改善充実 外部講師や家庭との連携による校内実習
	1月・2月	他学年との合同授業の実施
	3月	年間計画の見直し シラバス・評価規準の改善 効果的・効率的な評価方法の研究 成果の検証（生徒及び保護者への質問紙調査の実施）
	平成27年度	4月～
5月～		指導の実践（ICT活用含む），校内研修の充実
6月～		校内実習・論述試験の実施，校内実習における問題点の把握及び内容の改善充実 外部講師・臨地実習指導者や家庭との連携強化
8月～		県教育課程研究協議会や各種研修会に参加，課外における反復練習の推奨
12月～		公開授業及び研究協議，他学年との合同授業 アンケートの実施（衛看1・2年，1年保護者）
1月～		研究成果の報告・普及

4 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

家庭との連携強化：家庭との連携を密にするための校内支援体制の確立

地域の関係機関との連携強化：地域（外部講師・臨地実習指導者）の関係機関等と連携した校内実習・看護臨地実習の充実

他学年との合同授業：他学年と連携した校内実習の充実，看護臨地実習発表会への参加

I C Tの効果的な活用の工夫：実習前の知識・技術の確認を補完する動画の活用方法の検討，校内実習の振り返り・調べ学習での活用

言語活動の充実：論述試験の実施，レポート等の課題の充実，ワークシートの活用

その他：指導改善に繋がる効率的・効果的な評価方法の工夫

(2) 具体的な研究活動

家庭との連携強化

- ・基礎看護の保護者ボランティア（患者役）の協力による校内実習
- ・入学式当日の保護者懇談会において，年間校内実習計画表を配付する等の情報提供の充実
- ・実習項目の反復練習
- ・家事を行う協力依頼

地域の関係機関との連携強化

- ・外部講師による講義，技術指導
- ・臨地実習指導者の協力による校内実習
- 他学年との合同授業
- ・専攻科衛生看護科2年生（技術の統合）と衛生看護科1年生（基礎看護）の陰部洗浄の合同授業

- ・衛生看護科2年生の「看護臨地実習発表会～日常生活の援助を振り返って～」への参加
- I C Tの効果的な活用

- ・教材用D V Dの視聴による技術の確認
- ・校内実習中に撮影した動画の視聴による技術の振り返り
- ・インターネット等を活用した調べ学習

言語活動の充実

- ・思考の整理のためのワークシート活用
- ・技術レポートの作成
- ・基礎看護の定期考査における論述形式の出題
- ・グループ及び全体でのカンファレンスにおける意見交換

その他

- ・チェックリスト及びカンファレンスの工夫
- ・基本的な技術の習得にむけた反復練習の充実
- ・生徒の実態に応じた評価規準の検討
- ・知識・技術の定着に向けた実技テストの実施

5 研究の成果と課題

(1) 成果

保護者及び他教科教員による擬似患者としての校内実習への参加は、アンケート結果からも生徒同士の実習とは異なり、「保護者にどのように説明したらよいか、体格や年代の違いによって対応方法を考えることができた。」とあるように、主体的に考え判断し表現しようとする姿がみられ、コミュニケーション能力の育成や対象者に応じて援助技術を工夫しようとする姿勢がみられた。

- ・保護者に年度初めから年間校内実習計画表を配付するなど情報提供の充実を図ることにより、保護者ボランティアの参加人数が増加した。

- ・保護者からは、「日常の家庭生活において、もっと積極的に手伝いをすると動作もスムーズになると思いました。」という意見も出ているように、保護者の半数は、家庭での日常生活における気づきが大切であることを理解し、意識して家事手伝いや挨拶をさせていた。生徒は、家事の実践から得た学びや気づきを生かし円滑に校内実習を行っていた。

地域の連携として、外部講師と臨地実習指導者による専門的な観点からの技術指導により、新たな気づきも多く、安全・安楽を意識した技術の向上に向けて主体的に行動する意欲がみられた。アンケート結果からコミュニケーションの大切さや技術の根拠の再認識、さらに反復練習に対して意欲を示す生徒が多数みられた。また、臨地実習指導者による指導では、「実際に働いている人の話が聞けて一層看護師になりたいと思った。」などモチベーションの向上につながった。

- ・臨地実習指導者に生徒への指導内容や生徒の実態を見てもらうことで、生徒のレディネスを把握し、個々に応じた指導の大切さを理解してもらう機会となった。

他学年との合同授業では上級生から技術に関するアドバイスや臨地実習の話聞くことで、興味関心が高まり、技術習得に対する積極性を引き出すことができた。衛生看護科1年生にとっては上級生に対する「あこがれ」が強くなり、明確な将来像とお互いの向上心が高まったことがアンケートから読み取れた。

ICTの活用では、調べ学習により日常生活の中にも看護の対象となる事例が多く存在することを意識させることができた。また、校内実習の動画撮影とその視聴では手技の確認や患者役の心情の理解などに活用し、自ら課題に気づくことができた。

ワークシートを活用した体験学習や調べ学習の導入により興味関心が高まり、グループワークやカンファレンスでの意見交換等により、思考力、判断力、表現力を育成することができた。言語活動の充実を図ったことにより、自己の課題が明確化され工夫改善に向けた取り組みが活発になった。

実習目標と援助方法の根拠を明確にし、自己及び他者評価を記入するチェックリストを活用することで、習得すべき知識・技術を意識して校内実習に取り組むことができた。また、一巡目の生徒からグループカンファレンスを設けて、それぞれの役割から主体的に援助方法を再確認し、明確になった課題に対して意欲的に取り組み、技術が習得できたと実感した生徒が増加した。

定期的の実技テストを実施したことにより、校内実習で明確化した課題への克服に向けて自主的に練習に取り組む姿が見られた。

- ・反復練習や実技テストの結果を受けて、個別指導を行うことにより技術の向上につながった。生徒個々の実態を把握し評価規準を検討することにより、5年間を見通した到達目標が明確となり、より計画的な学習指導へとつながった。

(2) 課題

生徒の主体的な学習活動及び技能の習得を図るため、家庭や地域との連携を継続して強化する必要がある。

生徒が達成感を味わい、自己の成功体験から意欲的に学ぼうとする態度を育成する指導方法を工夫する必要がある。

看護臨地実習で求められる日常生活援助の実践能力と達成目標に即した評価方法を検討する。

(3) 指定期間終了後の取組

家庭との連携，地域の関係機関との連携強化

年間校内実習計画の検討の継続

ワークシートの効果的な活用の工夫改善

カンファレンス等において成功体験に対する言語活動を積極的に取り入れ，自己肯定感を高める指導方法の検討

臨地実習に繋げるための実技テストにおける評価方法の改善